



2020年2月19日

日本鉄道労働組合連合会

## J R 西日本連合「第 27 回委員会」

# 組合員と家族の負託に応える春季生活闘争に



J R 西日本グループ労働組合連合会（J R 西日本連合）は、2月12日、大阪市内で第27回委員会を開催し、安全確立、2020春季生活闘争、組織強化・拡大、福祉対策活動の推進など、当面する活動方針を決定した。

冒頭、幹事会を代表して登壇した上村良成議長（J R 連合副会長・J R 西労組中央執行委員長）は挨拶で、昭和・平成の時代に亘り、

今日のJ R 西日本グループ、J R 西日本連合を築き上げてきた諸先輩に敬意を表しつつ、「安全確立の取り組み」「2020春季生活闘争」「働き方改革と労働力不足への対応」「組織の拡大・充実と労使関係の重要性」が本委員会に課せられた主要課題として、それぞれの課題に対する見解を述べた。2020春季生活闘争については、「J R 西日本グループは長期雇用を前提とした働き方によって安全が担保され、長期的視野に立った人材育成を行うことで安定した事業運営が行われており、短期雇用を前提とした賃金体系は全く馴染まない」と、経労委報告で明記された日本型雇用の見直しを指摘し、「昨年同様、長期雇用を前提とした安定的な成果配分の重要性を会社側に訴え、組合員と家族の負託に応えるために全力で取り組む」との決意を示した。

また、委員会には来賓として、交運共済西日本事業本部など友誼団体の代表者が出席。J R 連合からは、尾形泰二郎事務局長と北村公次労働政策部長が出席し、代表して尾形事務局長が、2020春季生活闘争の基調認識やJ R 連合ビジョンで明記した運動理念の共有・実践を出席者に訴えた。

議事では、幹事会が提案した経過報告、活動方針（案）に対して3名の委員が発言。担当幹事答弁、白壁靖子事務局長（J R 連合特別執行委員・J R 西労組副執行委員長）の集約答弁を経て、すべての議案が満場一致で採択された。

その後、委員会宣言を採択し、最後に上村議長の団結ガンバローで閉会した。